



〈雑録〉ペイン關税法ヲ論ジテ其改正問題ニ及ブ(3)

松井, 啓介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(4):639-652

(Issue Date)

1911-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051784>



ペイン關稅法ヲ論ジテ

其改正問題ニ及ブ (其三)

商學士 松井啓介

(其二) 米佛ノ關係

上述セシ如ク米佛通商條約ハ一九〇九年十月三十一日ヲ以テ終了ヲ告グベキヲ以テ其廢棄ト共ニ米國ノ貨物ハ當然最高稅率ノ適用ヲ見ルコト明カナル事實ナルヲ以テ其條約終了前米國政府ハ佛國政府ト商議ヲナシ之ニ對スル解決ヲ計ラザルベカラザルナリ。然ルニ當時佛國ハ加奈陀ニ對シ互惠條約ヲ締結セントシ其協商將ニ成ラントスルニ際セシカバ米國ハ兩國ノ中孰レノ國ニ協商セントスルモ先ヅ他方ト意思ノ疎通ヲ計リ置カザルベカラザルヲ以テ其交渉頗ル複雑ヲ極メタルノミナラズ。特ニ佛國貨物(ウイスキーク萄酒燒酎飲料絹織物高價ナル綿織物其他必需

品ニアラズシテ贅澤品トシテ認識シ得ベキ凡テノ品目)ニ對スル著シキ増率ハ佛國ノ反感ヲ招キ搗テ加ヘテ米佛通商條約ノ廢棄ニヨリ蒙リタル不利益等益々時局ヲ困難ナラシメ一九〇九年十月中ニ佛國ト新條約締結センコト殆ンド不能ナリシガ故ニ條約廢棄當然ノ結果トシテ米國竝ニ「ポルトリコ」ノ貨物ハ十一月一日以降佛國ニ於テハ最高稅率ヲ適用セラル、コト、ナレリ。之レガ爲メニ米國貨物ノ負擔ノ増加シタルコト少ナカラズ多キハ二十一割二分ニ上リ少ナキモ尙三割三分餘ヲ下ラズ。(註此ノ如キ佛國最高稅率ノ影響ハ直接顯著ナルモノアリ。兩國ノ利害關係者ハ之ヲ見越シテ輸入ヲナシタルヲ以テ貨物集滯シ困難ヲ感ズルモノ少カラズ。十一月ニ入リテハ兩國ノ輸出額ハ著シク減退シ米國ノ石油ノ輸出ノ如キハ皆無ノ狀ヲ呈セリ(註三其他輸出ノ減退シタルモノ少カラズ。米國ノ利害關係者ハ此等ノ事實ヨリシテ不安ノ念ヲ抱クモ

ノ多ク政府ニ對シテ善後策ヲ講ズベキコトヲ主張セリ。然レドモ米獨兩國ノ協商ハ次ノ如キ理由ヨリ一九一〇年二月一日迄ハ著シク其交渉ノ

步武ヲ進ムルコト能ハザリキ。
(註一) 米國生産物ニ對スル佛國關稅率

佛國關稅目	最低稅率 百キロニ付	一般稅率 百キロニ付	增加 %
一七ノ二	一八九八年ノ協商	法 50	1.00 100
一九三〇	調製豚肉	15	20 33
八四	罐入肉類	25	40 60
	豚脂		
	卓上用生果物	5	15 200
	レモン、オレンジ、セドラツト及其他	10	25 150
	マダリンオレンジ	8	25 212
	普通卓上用葡萄		
	林檎及梨—	2	5 150
	卓上用		
	サイダー及梨酒用	1.50	2 33
	其他果物(温室葡萄及果物ヲ除ク)		
八五	乾キタル又絞リタル果物(乾葡萄ヲ除ク)		
	林檎及梨—		
	卓上用	10	15 50
	サイダー及梨酒用	4	6 50
	干梅	10	15 50
	其他	5	15 200
一二八	普通木ノ丸太	0.65	1 54
	厚サ80ミリメートル以上ノ板	1	1.50 50
	同35同以上80ミリメートル以下ノ板	1.25	1.70 40
	同 同 同 以下ノモノ	1.75	2.50 43
一二九	敷木片	1.75	2.50 43
一三〇	割木	0.75	1.25 67
一六〇	ホツブ	30	45 50
一七四ノ三	林檎及梨(壓潰シタル若クハ自然ナラザル)	1.50	2 33
九六	一九〇八年ノ協商		
	珈琲(一九〇三年二月二十一日ノ法令)	1.36	3.00 121
一九七	石油(一八九三年七月十七日ノ法令)	9又7.20 (ヘクトリ) (フトルニ付)	18 100
	粗製	12.50又10 (ヘクトリ) (フトルニ付)	25 100
一九八	精製	9	12 33
	重油及石油ノ殘物及其他蠟油(一八九三年七月七日ノ法令)		

* 以上ノ表 第二欄ニ示シタル一般稅率ノ適用ハ最低稅率以上ニ三割三分ヨリ二十一割二分ノ關稅ノ増加ヲ示スモノナリ。

(註二) 米國石油ノ佛國ヘノ輸入額

左表ニヨリテ佛國最高稅率適用ト同時ニ輸入皆無ヲ示シタルヲ明ニスベク更ニ見越輸入ノアリタルコトヲ知ルベク特ニ重油ニ於テ一九〇九年十月ヨリ輸入ノ無キハ即チ之ナリ。

米國ヨリ精油輸入額

一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年
一月 一、九四〇、七七五 ^弗	二月 二、二四六、二一一 ^弗	三月 六三一、七五九 ^弗
二月		
三月		
四月		
五月		
六月		
七月		
八月 236,413 ^弗		
九月 833,097		
十月 694,702		
十一月		
十二月		

米國ヨリ重油輸入額

一九〇九年	一九一〇年
八月 155,488 ^弗	一月
九月 358,263	二月
十月	三月
十一月	四月 1,236
十二月	五月 130,123
	六月 77,524
	七月 35,258

(一) 佛國外交當局者ノ反對セルコト。即チ當局者ハ米國ニ對シテ佛國最低稅率ヲ許スガ如キハ愚ノ極ニシテ容易ニ思考シ得ザルコトニ屬スト切言シテ強硬ノ態度ニ出デタリ。

(二) 佛國保護論者ノ反對アリタルコト。即チ同論者ハ米國ト關稅戰爭ヲ開始スベク最低稅率ハ之ヲ許スベカラズトセリ。

(三) 一面米佛兩政府間ニ關稅交渉アルアリ。
一面佛國議會ハ其關稅定率法改正ニ對シテ腐心
シ居リタルヲ以テ之ガ爲兩政府間ノ商議ハ著シ
ク進捗スルコト能ハザリキ。

(四) 佛加互惠條約ノ未決定ナルコト。即チ佛
加通商條約ハ一九〇九年四月一日佛國議會ヲ通
過シタルモ加奈陀議會ハ之ヲ承認スルニ至ラザ
リシヲ以テ米佛間ノ關稅交渉協議ヲ滯滞セシメ
タリ。

此ノ如キ事情ノ下ニ兩國ノ商議涉々シカラザ
リシモ討議ニ討議ヲ重テタル結果遂ニ米國ハ一
九一〇年三月二十日佛國貨物ニ對シ最低稅率ヲ
課スベキコトヲ許容セリ。佛國モ亦米國トノ貿
易上競爭國ナル英、獨、露、白、瑞、西、伊、和等ノ
諸國ハ米國最低稅率ヲ受クルニ獨リ自ラ好シ
關稅戰爭ヲナスノ不利益ナルヲ認メ遂ニ佛國ハ
一九一〇年三月三十日佛國新關稅法ヲ官報ニテ
公布スルト同時ニ米國ニ對スル最高稅率ヲ廢棄

セリ。之レト同時ニ佛國ハ米國ニ對シテ九十一
品目ニ其最低稅率ヲ適用スルコトヲ許容セリ。
上來述ル所ニヨリテ明カナルガ如ク米佛政府
間ノ商議ハ頗ル困難ヲ極メ幾箇月ニ亘リテ決セ
ズ。暗鬱風雲ノ急ナルモノアリテ殊ニ米佛ノ利
害關係者ヲシテ寒心セシメタルモ漸クニシテ此
ノコト無クシテ終リタルモ結局米國ハ佛國ヨリ
十分ナル恩惠ニ浴スルコト能ハザリキ即チ佛國
ガ加奈陀ニ對シテ提供シタル讓歩ハ頗ル廣ク三
百五十種品目以上ノ加奈陀ノ貨物ニ對シテ最低
稅率ノ適用ヲ許シタルモ之ニ反シテ米國ニ對シ
テハ僅カニ九十一種ノ品目ニ其最低稅率ヲ許シ
タルニ過ギズ (註)

(註) 佛國ハ輸入サルベキ加奈陀生産品ニ與ヘタル最低稅率
ニシテ米國ヨリ輸入品ニ與ヘザルモノ、中ニテ最モ著シキモ
ノヲ舉グレバ左ノ如シ (次ノ百分率ハ加奈陀生産品ニ對ス
ル佛國關稅ガ米國生産品ニ對スルヨリ低減割合ヲ示スモノナ
リ)

家畜三割三分ノ一、肉類(罐入及豚肉ヲ除ク此ノ二者ニ對シ

テハ米國モ同様ノ恩典ヲ受クハ種類ニヨリ三割乃至四割馬鈴薯ハ割六分三分ノ二其他野菜ニ割乃至六割牛酪三割三分乾酪五割七分乃至六割六分農具四割縫機二割乃至三割發電機二割六分乃至五割六分織物機械二割三分乃至三割三分各種器具類一割四分乃至三割三分金釘三割一分乃至四割六分鐵鋼製桶二割乃至三割三分什器一割四分乃至三割三分木器一割六分乃至五割護膜製品一割乃至三割三分

次ニ加奈陀ニ輸入サルベキ米國生産品ト競爭品タル佛國生産品ニシテ佛加新條約ニヨリテ特別稅率ヲ享クベキ重要ナルモノ左ノ如シ(次ノ百分率ハ佛國生産品ニ課スル加奈陀關稅ガ米國生産品ニ課スルヨリ低減ノ割合ヲ示スモノナリ)

罐入肉類肉類ノ精製品及各種肉汁等ハ九分乾酪七分罐入番茄一割六分三分ノ二其他罐入菜類(焙豆類ヲ含ム)三割三分ノ一漬物汁和物類七分乾梅乾葡萄三割三分ノ一罐入果物類一割一分罐入魚類一割一分乃至二割各種菓子類七分印刷用紙一割二分二分ノ一筆記用汁一割窓硝子一割六分三分ノ二眞鍮又ハ銅製品及其時計類及其附屬品八分乃至一割六分三分ノ二鐵鋼ノ各種製品八分鐵道用機關車原動機一割四分各種電話機電信機及電氣用機器九分木製品一割器具類八分針金戶金窓針金蛇腹八分現金表記機八分皮革製品九分各種靴類八分科學的又寫眞術機械一割其他無類ノ生産品一割二分二分ノ一

故ニ加奈陀ハ佛國市場ニ於テ米國ヨリモ有利ナル下ニアリ又佛國ハ加奈陀市場ニ於テ米國ヨリモ有利ナル條件ニ立ツモノト云フベク以テ競爭上ハ相互ニ優勝ナル地位ニ在リ此ノ如ク米國ハ佛國ヨリ十分ナル恩典ヲ蒙ルコト能ハザリシハ其報償タルベキ米國最低稅率ガ佛國貨物ニ對シテ高度ナルガ爲ニシテ毫モ怪ムニ足ラザルナリ。

(其二) 米加ノ關係

米加兩國間ニ起リタル難問題ハ種々アリト雖モ先ヅ指ヲ關稅問題ニ屈セザルベカラズ。

米佛關稅問題ハ佛加通商條約ニヨリ其進捗ヲ妨ゲタルハ上ニ之ヲ述タリ。然ルニ同條約ハ加奈陀議會ノ承認スル所トナリテ一九一〇年二月一日巴里ニ於テ批准書交換セラレタリ。該條約ハ加奈陀最惠國條款ニヨリテ英國及其殖民地亞爾然丁共和國奧洪國ボリビア、コロンビア丁抹日本諾威露國西班牙瑞西ウエネズエラ等ノ十三

箇國ハ之ニ均霑セシモ米國ハ此ノ利益ニ與ルコト能ハザルヲ以テ米國ハ之ヲ以テ加奈陀ハ米國ニ對シテ不當ノ區別的取扱ヲナスモノトセリ。「バルブ」問題ノ如キ早クヨリ兩國關稅爭議ヲ來シ互ニ感情ノ衝突ヲ來シ居リタルモ之ニ對シテ交渉ヲナスコト無ク經過セルモ其後時局ノ困難ヲ來スニ至リテ益々兩國民ノ感情ヲ害スルニ至リタルヲ以テ米國政府ハ默過スルコト能ハズ。特別關稅交渉委員(委員長トシテオツタワ駐在米國總領事フオスター氏關稅調查局長エメリー教授國務省通商局商事官ベツバアー氏)ヲ派遣シテオツタワ政府ト交渉ノ任ニ當ラシメタリ。同委員ハ一九一〇年三月四日ヨリ同八日迄商議折衝ヲナシタルモ何等解決ヲ見ルニ至ラザリキ米國政府ハ(第一)佛加條約ニ均霑スベキコト(第二)加奈陀皇領地產「バルブ」ニ對スル輸出稅ヲ撤廢スベキコト(第三)米國貨物ニ對シテ加奈陀中間稅率ヲ以テスルコト(註)等ヲ主張セリ。

(註) 現行加奈陀關稅ハ之ヲ左ノ四種ニ區別スルコトヲ得。
(一)特惠稅率。英本國及英領ニノミ適用セラレモノニシテ一般稅率ノ三分ノ二

(二)中間稅率。互惠的ニ適用スルモノニシテ佛國貨物ハ此ノ恩典ヲ受ケタリ。

(三)一般稅率。一般外國品ニ適用スルモノ

(四)報復稅。即チ一般稅率ニ加フルニ附加稅三割三分三分ノ一ヲ以テスルモノ

加奈陀政府ハ之ニ對シテ假令米國最低稅率ノ適用ヲ受クルモ以上ノ要求ニ應ズルコト能ハザル旨ヲ言明セリ蓋シ其理由トスル所ヲ見ルニ多年加奈陀ハ米國政府ニ對シテ關稅上ノ恩典ヲ要求シ之ニ對シテ加奈陀ハ優遇取扱ヲナスベキコトヲ屢々主張シタルモ米國政府ノ容ル、所トナラザリキ。之レガ爲加奈陀ハ米國ヲシテ佛加條約ニ反對スルヲ許サシメザルナリ。飽ク迄佛加條約ハ米國ニ對シテ區別的取扱ヲナスモノニアラズトセリ。次ニ「バルブ」問題ニ就テハ加奈陀各州ガ「バルブ」ニ輸出稅ヲ課シ或ハ之ヲ禁止スル

ガ如キコトアルモ聯邦政府ハ之ニ對シテ何等干渉スルコト能ハザルナリ。之レ蓋シ各州ハ加奈陀憲法制度ノ下ニ其得タル權限ニヨリテナスモノナレバ此ノ問題ニツキテハ加奈陀政府ハ如何トモスルコト能ハザルナリ。又米國貨物ニ對シテ平均二割三分ヲ課スルニ過ギザルヲ以テナリ。茲ニ於テカ兩國關稅戰爭ノ議兩國間ニ起リ益々困難ナル事情ニ陷リタリ。戰端開始ノ曉ハ米國ハ其最高稅率ヲ以テ唯一ノ武器トナスモ加奈陀ハ之ニ應戰スルニ米國品ニ對シテ報復稅ヲ以テシ尙米國最高稅率ト對抗シ得ル迄其稅率ヲ一般ニ増加シ米國ニ輸出スル「バルブ」及其米國製造工業ニ必要缺クベカラザル原料品ノ輸出ヲ禁止ヲナスニアリ。然ルニ米國ニ於ケル輿論ハ此ノ如キ戰爭ヲ喜バズ。速ニ之ガ適當ノ策ヲ講ズベキコトヲ主張シテ止マズ。之ニ反シテ加奈陀ノ輿論ハ頗ル強硬ニシテ宣戰ノ布告ヲ要求シテ一步モ之ヲ讓ラザリキ。三月十九日大統領タフト氏

國務卿ノツクス氏ハ加奈陀總督グレイ氏大藏卿フキルデング氏ト紐育州アルバニー市ニ會合シテ以上ノ爭點ニツキ商議ヲナシ大ニ努力スル所アリシモ加奈陀ノ委員ハ以上ノ主張ヲ固守シテ頑トシテ容レザルヲ以テ交渉不調ニ終リ加奈陀ハ頗ル強硬ナル態度ヲ維持セリ。然レドモ關稅戰爭ノ如キモト之レ止ムヲ得ザル政策ニシテ兩者孰レモ不利益ヲ蒙ルモノナルコト明白ナル事實ナレバ此ノ如キ結果ニ至ラザルヲ希望スル固ヨリ理ノ當然ナリ。タフト氏ノ如キ佛加條約ハ米國ニ對シテ差別的取扱ヲナスモノナレバ加奈陀ニ對シテ最低稅率ヲ許可スルガ如キ思考シ得ザルコトニ屬スト言明セシモ當時國內ニ於ケル物價騰貴生活難ノ甚ダシキアリ。米加戰爭ヲ開始スルガ如キコトアランカ内政上ハ兎ニ角經濟上ニ及ボスベキ影響モ亦大ナルベキヲ以テ成可的互讓的態度ニ出デ他日稅率ヲ輕減シテ互惠條約ヲ締結スベキコトヲ大統領ハ保證スルニ至レ

リ。三月二十六日タフト氏及ノツクス氏ハワシントンニ於テヒキルデング氏及グレー氏ト秘密商議ヲ遂ゲタル結果茲ニ圓滿ナル解決ヲ見ルヲ得タリ。即チ米國ハ加奈陀ニ最低稅率ヲ以テシ之ニ對シテ加奈陀ハ內國ニテ生産スルコト能ハザル十三品(主タルモノハ葡萄酒、絹布、羊毛、棉花油、熱帶果物等)ニ對シ中間稅率ヲ以テセリ。而シテ「バルブ」問題ニ對シテハ加奈陀ノ主張ヲ承認セシヲ以テ本問題ハ各州ノ自由行動トナシタルナリ。

紐育タイムスハ兩國關稅協議ノ結果特筆大書スベキハ實ニ左ノ二點ニ在リトシテ曰ク

(一)加奈陀政府ハ米國ニ對シテ何等ノ恩典デモ與ヘザリキ米國ニ與ヘタル輕減稅率ノ如キ他ノ通商諸國ニモ之ヲ許容スル所ナリ。之レヲ換言スレバ加奈陀ハ最早米國ノ最高稅率ヲ以テ威嚇スルモ何等ノ痛痒ヲモ感ゼザルコトヲ明示スルモノナリ。即チ加奈陀ハ自國ノ立場ヨリ打算シテ憚ルコト無ナコト之レナリ

(二)大統領ハアルバニー市ワシントンニ於テ加奈陀委員ニ

將來兩國ノ關稅ヲ相互ニ輕減ナシ兩國ノ關係ヲシテ益々親善ヲ計ランコトヲ保證セシコト之レナリ。

是レ其要ヲ盡シタルモノト云ツベク加奈陀トノ協議ニ於テ米國ハ最低稅率以下ニ妥協スル道無キガ故ニ加奈陀モ亦佛加協定稅率ノ全部ヲ米國ニ許サルナリ。之レ將來米加兩國ガ相互的ニ或ル種ノ貨物ニ對スル稅率ヲ輕減シテ兩國ノ親善ヲ計ラントスル所以ニシテ實ニ兩國互惠條約締結問題ノ起リタル由來蓋シ此所ニ發スルモノナリ。

以上之ヲ要スルニ米國ニ於ケル關稅談判ハ無事落着ヲ告ゲ關稅戰爭ノ旗揚ゲトモナリ悲劇ノ初幕トモナリ得ベカリシ形勢ハ爲ニ無事ニ通過シ終リス。然ラバ新關稅法ノ第二章ノ規定タル報復規定ハ果シテ成效セリトナスカ余輩ハ其效果ノ大ナラザルヲ認メザルヲ得ズ。輸入禁止の最高稅率ヲ以テ其交渉ニ當リタル結果同復稅率制度ノ目的ノ幾分ハ貫徹シタルモ同時ニ屈伸自

在ヲ缺クノ短所アルハ上來述ル所ニヨリテ之ヲ知ルベキナリ。

翻テ惟フニ最高最低稅率ノ效果ヲ問フガ如キハ抑々末ニシテ通商諸國トノ商議ニ於テ十分ナル恩典ヲ受クルコト能ハザルハ依然トシテ極端ナル保護政策ヲ執リ其言質タル當初ノ關稅低減改正ヲラサバルニ歸因スルナリ。最高最低稅率制度ノ效果ノ大ナラザル由テ來ル所自ラ存スルモノナリ。其本ヲ拔カズシテ其末ヲ矯メントス。又難イ哉。

終リニ臨ミ余輩ハ米加互惠條約ニ就テ一言ヲ試ミントス。

近世關稅史上重要問題トシテ各國ノ重要視スルモノヲ米加互惠條約問題ナリトス。殊ニ英國ニ於テハ本問題ノ惹起スルト同時ニ朝野ノ議論ヲ醸シ或ル者ハ該協約ヲ以テ帝國ノ一大災害ナリトシ又アル者ハ加奈陀ニシテ國民的而モ帝國の連鎖ニヨラズシテ地理的關係ニヨリテ發達セ

ンカ之レガ爲英帝國ノ歷史上ニ一大變動ヲ來スベシト論ジ又アル者ハ之レ英國ヨリ分離スルモノナリ。米國ニ合併セシムルモノナリトナシ頗ル紛擾ヲ極メタリ。蓋シ兩國互惠條約ノ内容ヲ廣汎ナルモノヨリシテ生ジタル議論ニシテ英本國ニ取リテ此ノ論アル決シテ怪ムル足ラザルナリ。

今少シク歴史ヲ尋ヌレバ曩ニ米國ハ加奈陀ト互惠條約ヲ締結シテ之レニヨリテ一八五五年ヨリ一八六六年ニ亘リ十二年間互惠的貿易關係ヲ持續セリ。其後一八九一年加奈陀ニ於テハ再ビ兩國互惠條約問題論起リ自由黨ハ自由貿易ヲ始メントシ保守黨ハ之レ加奈陀ノ獨立ヲ失フモノナリトシテ之ニ反對セリ。其後一八八九年ラウリエール時代ニ天產物ニ對スル自由貿易ヲ希望シタルモ米國政府ノ應ズル所トナラザリキ然レドモ今ヨリ略十年前マツキンレー氏ハ此ノ點ニ就テ曰ク

The period of exclusiveness is past. The expansion of our trade and commerce is the pressing problem. A policy of good will and kindly trade relations will prevent reprisals. Reciprocity treaties are in harmony with the times; measures of retaliation are not.

マ氏ノ後ヲ襲フテ立チタル彼レローズベルト氏ハマ氏ノ宣言ヲ實現スル機會ヲ有セズシテ終リタルニ今ヤ大統領タフト氏ハマ氏ノ政策ヲ實行シテ互惠條約ヲ締結セントス。頗ル注目ヲ要スル所タリ。

上來ノ如ク兩國委員ノ言質タル米加互惠條約締結ハ事實トシテ茲ニ現ハル、ニ至リタルナリ大藏卿フキルデング氏等ハ加奈陀ヲ代表シ米國總領事フオスター氏等ハ米國ヲ代表シテ一九一〇年十一月五日オッタワニ會合シテ談判ヲ開始セリ。其商議ハ秘密ニ進捗シ同月十日ニ終レリ。

加奈陀總督グレー氏ハ十一月十七日議會ニ於テ加奈陀ノ利害關係者ヲ害スルコトナキ協定ヲナシ加奈 生産品ハ有利ナル條件ノ下ニ米國ニ輸入サル、モノナリト云ヘリ首相。ラウリエー

氏ハ同月二十一日モントリオ市ニ於テ同様ノ主旨ヲ明言セリ。

米國大統領タフト氏ハ十二月六日議會ニ敎書ヲ以テ兩國ノ通商關係ハ之レニヨリテ更ニ改善ヲ來シ貿易ハ自然ノ要路ニヨリテ益々兩國ノ産業竝ニ貿易ハ大ナル發展ヲ期スベキモノナリト揚言セリ。ゼームスヒル氏ノ如キ十二月八日紐育市ニ開催セラレタル加奈陀協會ニ書ヲ寄セテ曰ク「一八九七年以後互惠條約ニ對スル米國政府ノ態度一變シタルハ一ハ社會上一ハ經濟上ノ理由ニ基クモノナリ」ト蓋シ至言ト云フベシ。

一九一一年一月七日兩國ノ委員ハワシントンニ會合シテ秘密商議ヲナシ從來ヨリ更ニ其光明ヲ認ムルコトヲ得タリ是レ兩國政府ノ本條約ニ對スル熱心ナル希望ヲ有スルガ爲ナリ。遂ニ兩國互惠條約ハ一月二十六日兩當局者ニヨリテ公表サル所トナレリ。米國ハ翌二十七日之ヲ議會ニ提出セリ。

今互惠條約ノ内容ヲ見ルニ該案ハ第一類ヨリ
第四類ニ亘リテ其無稅及輕減種目甚ダ多シ即チ
其梗概ヲ記セバ左ノ如シ

(第一類)兩國相互ニ稅率ヲ撤廢シテ無稅トス
ルモノ。

田畠ノ產出物家畜木材礦物(雲母石綿螢石等)銅
製品ノ一部機械類「バルブ」、一封度四仙以下ノ
印刷紙等

(第二類)相互ニ同率迄輕減スベキモノ。

肉類(生肉)「ハム」「ベーコン」等若干ノ農產品天
產物農具若干ノ製造品(及物板硝子自働車時計
等)

(第三類)加奈陀物品ニ對シテ特ニ減稅セシモノ。
「アルミニウム」、板類、鐵鑛、石炭粉等

(第四類)米國物品ニ對シテ特ニ減率セシモノ
「セメント」、石炭、林檎、「コンデンスマルク」、
「ビスケット」、落花生等

之ヲ要スルニ第二第三第四ニ屬スルモノ、減

稅ハ不同ナルモ概シテ重大ナラズシテ外國貿易
ニ及スコト比較的大ナラザルモ第一種ノ無稅品
ハ大ニ注目スベキ點ナリトス。

今右互惠條約ニ對スル米國ノ論議ヲ見ルニ之
ニ賛成スル論者ハ之レ米國製業者ノ爲ニハ最有
利ナル市場ノ開放トナリ其使用スル原料品ヲ得
ルノ便ヲ與ヘ米國消費者ニ低廉ナル食料品ヲ供
給シ而シテ各種ノ貿易ヲ増進セシムルモノナリ
ト云フニアリ。之レニ反對スル者ハ皆自家ノ利
害ヨリ打算シテ論ズルモノニシテ頗ル旺盛ヲ極
ムルアリ。其大體ヲ左ニ摘記セン。

(一)「バルブ」及印刷業者ノ反對

(二)木材業者ノ反對

(三)農業者ノ反對

(四)農業者(加奈陀ニ接近スル北部地方)ノ反對

(五)マサチューセツツ州海岸ノ漁業者ノ反對

(六)「トラスト」ノ利益タラシムルノミナリト主張スル者ノ
反對

(七)賃銀ノ下落及其職業ヲ失フコトヲ懸念スル勞動者ノ反
對

次ニ加奈陀ニ於ケル論議ヲ見ルニ互惠條約ニ賛成スル論者ハ輒近加奈陀貿易ノ一大増進ヲ論ジ。米加貿易ハ英加貿易ヨリ更ニ密接ナル關係アリトシ兩國ノ通商ハ此ノ自然的地理的關係ニヨリテ益々發達セシムルコトヲ得ルトセリ然ルニ之ニ反シテ不賛成論者モ亦頗ル多キヲ占ムルヲ知ラザルベカラズ。今其梗概ヲ左ニ示サン。

(一)現今加奈陀ハ商業ノ健全ナル發達ヲナセリ。米國ハ自國ノ必要上加奈陀ニ互惠ヲ要請スルモ加奈陀ハ宜シク過去ノ事實ニヨリテ之ニ反對スベシト論ズル者

(二)米國從來ノ不公平ナル取扱ヲナシタル事例ヲ掲ゲテ之ニ反對スル者

(三)加奈陀ハ多大ノ資本ト勞力ヲ費シテ鐵道ヲ完成シ東西ノ關係ヲ密接ナラシメタリ。故ニ若シ互惠條約ノ締結ヲ見ルトキハ南北ノ關係トナルヲ以テ莫大ナル資本及勞働ハ爲ニ徒勞ニ屬スベシト論ズル者

(四)互惠條約ハ加奈陀ノ製造工業者ノ發達ヲ阻害スルモノナリト反對スル者

(五)之レ英國ノ特惠ヲ無效タラシムルモノナリトシテ米加互惠條約ニ反對スル者

之レ最モ加奈陀ニ於ケル一大論難ニシテ頗ル旺盛ヲ極ムル所ノモノナリ。故ニ首相ヲウリエー氏ノ如キ決シテ英本國ノ特惠ニ毀害ヲ及スモノニアラズト辯護シ又互惠條約賛成論者中或ル者ハ英本國ニ對スル稅率ハ更ニ之ヲ輕減シ若クハ全然自由貿易ヲ開始スベシト論ズル者アリ蓋シ故無キニアラザルナリ。

(六)米國ノ現行稅率ハ加奈陀ノ二倍ナレバ米加互惠條約締前矢ヅ其稅率ヲ輕減スルコトヲ要ストシテ反對スル者

(七)之レ加奈陀消費者ヲ利スルヨリハ寧ロ米國「トラスト」ヲ利スルノミナリトシテ之ニ反對スル一般論者

(八)一八六六年同様米國ハ此ノ條約ヲ撤去スルコトナシトセズ。之レ米國ハ唯利益ノ存スル場合ニ於テノミ常ニ主張スルヲ以テナリト論ズル者。

(九)其他食料品業者、石炭業者、漁業者、パルプ業者農具製造業者等自家ノ立脚點ヨリ打算シテ反對スル者

由是觀之兩國ノ利害共ニ存在スルヲ以テ兩國賛否論中々盛ニシテ互ニ讓ラズ該條約ノ批准ヲ見ルガ如キ殆ンド絶望ナルガ如ク見ユルモ亦必シモ成效ヲ期シ難シト云フベカラズ往々新發展ノアリテ豫測スベカラザルモノアルヲ以テナリ

米國下院ハ該條約案ニ對シ討議ヲ重キタル結果
遂ニ本年三月中旬九十二ニ對スル二百票ヲ以テ
可決セルモ上院ハ之ヲ否決シ去レリ。三月四日
議會ハ閉會トナリタリ後大統領タフト氏ハ飽ク
迄其ノ完成ヲ遂ゲンガ爲四月四日臨時議會ヲ召
集シテ翌五日タフト氏ハ敎書ヲ以テ該案ノ速決
アランコトヲ希望セリ。同十五日下院ハ該案ノ
討議ヲ開始セリ。彼ノ保護論者ノ急先鋒タル前
下院議長カンノン氏ノ如キ之ニ反對シテ左ノ如
ク云ヘリ。

The Reciprocity agreement is a good thing for Canada, but
a bad thing for the United States, and to pass the bill
without amendment will be to allow Canada to legislate for
the United States.

其他此ノ如キ論ヲナシテ反對セシモノ多カリシ
モ遂ニ四月二十一日八十四票ニ對スル二百六十
六票ノ多數ニテ同案ヲ通過シ之ヲ上院ニ移セリ
該案ハ五月一日上院ノ議ニ附セラレ賛否論孰レ
モ旺盛ヲ極メ幾多ノ修正案ヲ提出ヲ見危險ノ地

位ニ陥リタルモタ氏ノ盡力ニヨリテ七月二十二
日原案ノ儘通過シ直ニ大統領ノ裁可ヲ經ルニ至
レリ。七月開會セル加奈陀議會モ亦該案ニツキ
討議ヲナシ首相ラ氏ノ熱心ナル盡力アリタルニ
拘ラズ最近ノ報導ニヨレバ議會ハ該案ヲ承認セ
ザリシ結果遂ニ解散ヲ見ルニ至レリトアリ。果
シテ今後新議會ノ召集アリテ同案ヲ通過スルカ
否カハ上述ノ如キ幾多ノ困難ナル事情アルヲ以
テ條約ト云フ名義ニヨリテ米加關稅問題ヲ決セ
ントスルハ事實上不可能ナルガ如ク思ハル果シ
テ如何ナル發展ヲナスベキヤハ唯時日ニ待ツノ
外無キノミ。

惟フニ如何ナルモノモ之ヲ遂行センガ爲ニハ
一部利害關係者ノ反對アルハ免ルベカラザルコ
トニシテ之レ如何トモスベカラザルヲ以テ若シ
該互惠條約ノ如ノ如キ兩國一般國民ノ爲ニ利益
ナルモノアルアラバ少ナル反對ハ寧ロ之ヲ度外
視シテ一國ノ利益ヲ計ラザルベカラズ。此ノ點

ヨリシテ余輩ハ本問題ノ完成ヲ遂グベキヲ希望スルモノナリ。然レドモ若シ該條約ニシテ成效ヲ遂ゲタリトセバ米國商政上著シキ結果ノ生ズル無キヲ保スベカラズ。何トナレバ米國ハ有條件最惠國條款國ナレバナリ。之ヲ例セバ上ニ述タル米獨關稅戰爭ニ於テ見ル如ク米國ハ獨逸ヨリ最低稅率ノ全部ノ恩典ニ浴セシヲ以テ若シ獨逸ニシテ將來米加互惠條約ニ均霑セントスル場合ニ於テ其報償トシテ獨逸ヨリ受クルモノ無キ爲其均霑ヲ拒ム如キコトアランカ獨逸モ亦他國トノ特別協定ヲナシタル場合ニ於テ米國ノ之ヲ要請シタル場合ニ於テモ亦之ヲ拒絕セン。理論上此クノ如クナラザルベカラザルモノナルニ近

時各國ノ互惠條約ノ形式ヲ見ルニ必シモ稅率ノ輕減ヲ必要トスルコト無ク唯或ル保證ヲ與フルノミニテ(例ヘバ日英通商條約)之レヲ以テ雙務的ナリトスル如ク他日米獨間ニ於テモ亦米加互惠條約ニ均霑セシムル條件トシテ之ヲ稅率ニ求

メズ例ヘバ米國肉類ニ關スル検査若クハ課稅上少シク他國ニ比シ寬大ニナサンコトヲ要求シ之ヲ以テ代ヘンカ必シモ關稅商議上困難ナルベシトモ思ハレザルモ果シテ此クノ如キヲ以テ満足スベキヤ否ヤハ明カナラズ唯茲ニ一言シテ他日ノ資ニ供セントス。(未完)

混水株ノ弊害ヲ論ズ

商學士 海老原竹之助

動アル所、必ズヤ反動アルチ免レズ、曾テ自由競争ヲ以テ經濟發展ノ必須要件トナシタレトモ、今ヤ自由競争ヲ杜絶セントスル企業ノ合同ヲ目シテ經濟發展上ノ自然的現象ナリトナスニ至レリ。

思フニ企業ノ合同ニ關シテ研究スベキ問題數多アルベシト雖其中最モ重要ナルモノ何ゾヤト問ハハ先ヅ指テ合同ノ利弊如何ノ問題ニ屈セザルベカラズ、蓋シ合同ハ經濟發展上ノ自然的現象ナルヲ以テ幾多ノ利益ノ之レニ伴フハ勿論ナレドモ其偉大ナル資力ト其獨占ノ地位トハ又數多ノ弊害ヲ社會ノ各方面ニ流布スルモノアレバナリ也、今題シテ「混水株ノ弊害